

説教 「義の道、いのちの道」 エゼキエル 36:25-28 ローマ 6:11-14 2023. 8. 6

仙川教会代務者、ユーカリが丘教会主任担任教師 大串 眞

先月からキリスト教入門講座を礼拝後に始めました。一応 30 分という目安ですので、十分なことはできませんが、牧師が一方的に話すのではなくできるだけ参加される方の声を聞きながら、その対話の中で、学びとっていただけたらと願っております。その会の手がかりとしてローマの信徒の手紙の説教を続けて行っていますので、そういうことを手掛かりにさせていただきたいと、先月、今までの説教をつづったものを配布しました。また、今日の説教も話の出発点にさせていただければと思います。

本日の説教は、「洗礼」が中心に語られています。そして、洗礼後の生活、クリスチャンライフについて語られています。

この話はある対話がきっかけでした。前回までのことを思い起こしていただきたいのですが、使徒パウロは、この手紙で、「神の義」について語ってきました。もう一度おさらいしてみますと、その中心はとても単純な真理です。それはイエス・キリストを信じたら救われるということです。十字架と復活による罪の贖いという救いが、聖霊によってわたしたちの信仰となり実を結んでいきますと、神と和解とした人生として、たいへん祝福されるのですね。わたしたちの罪が増し加わると、恵みもさらに増し加わって、感謝が大きくなるという逆説・逆転についても語られました。まったくありがたい話です。

しかし、それに対してある質問というか反対意見が予想されたのですね。恐らく直接パウロに投げかけられた意見というよりも予想された意見だったのかもしれませんが。

罪が増せば増すほど、恵みが増し加わるのだったら、大胆に罪を犯したらいいのではないですか。どんどん罪を犯したらいいのですか。これは罪のゆるしということをどう受け取って生きていったらいいかということです。つまり、クリスチャンとしていかに生きていったらいいかということです。それに対して、使徒パウロは、「洗礼」を語るのです。そして、「洗礼」後いかに生きていったらいいか。

ここで四つにわけて、今日のところを確認していききたいと思います。そして、わたしたちに与えられ期待されている恵みとして受け取って参りましょう。

第一のことは、洗礼とは、キリストと結ばれた生活を始めることです。

皆さん、洗礼とはどういうことだと思いますが、この箇所でも語られていることは、「洗礼はキリストに結ばれること」です。「キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたち」**3 節** わたしたちが、今までは自分が人生の主人として歩んできたと思います、しかし、ここからは、キリストがわたしの人生の主人であります。キリストに従う人生、キリストと共に生きる人生がここからはじまります。いかにして？それはとても不思議なみ業としてとしかいいようがありません。わたしたち一人一人がキリストの体の一部分として、結ばれていきます。それはわたしたちの人生の決断、選択ということも在りましょう、しかし、根本的には、神様がそうしてくださったから、神様の導きとしか言いようがありません。わたしたちが捕らえたというよりも捕らえられるということ。わたしたちの中にキリストに従っていこう。キリストと共に生涯を生きていこうという思いが与えられたら、それはわたしたちというより神様から起こされた思いです。すでに洗礼を受けて、クリスチャンとなった方は、キリストに捕らえられているという恵みをもう一度思い起こしていただきたいです。

さて、第二は、洗礼は、新しいいのちとして誕生することです。洗礼の際に、これも不思議

なことなのですが、キリストと共に古き自分が死ぬ。そして、キリストの復活のいのちにあやかかって自分も新しい誕生をすることが語られています。それは解放といのちを意味いたします。古い自分からの解放。罪でがんじがらめになっていた自分から解放されるのです。そして、神の子とされて新しい人として誕生します。このいのちが復活のいのちです。つまりみなさん、わたしたちは、死後に、キリストが再び地上に来られる再臨の後、復活して永遠のみ国において生きるということだけでなく、洗礼時に、もう復活のいのちにあずかっているのです。霊的な赤ちゃんとしてわたしたちも誕生いたします。永遠のいのちはすでに始まっているのです。

第三のこと、悔い改めと聖化の道のりが今日の箇所でも語られています。

洗礼は、悔い改めの時でもあります。罪深い古き自分が、キリストの十字架と共に死ぬ。それをわたしたちが信じるだけでなく、罪を懺悔して、告白し、そこから離れる決心をする。罪から離れる出発点です。しかし、それは、最初だけで、もう卒業してしまうのではなく、常に悔い改め続けるのです。皆さん、毎週の礼拝は、洗礼時の悔い改めを繰り返していることをご存知でしょうか。教会によっては洗礼式に使われる洗礼盤を常時、礼拝堂の正面に置いている教会があります。それは、思い起こすためなのです。宗教改革者マルチン・ルターは、悔い改めというのは、生涯悔い改め続けることだと話しました。まず、洗礼の時に、キリストの十字架と共に古い罪に支配されていた自分が死に、キリストの復活と共に、新しくされて、罪から解放された者となっていることを知ること、認めることが大事だと言われています。

11節「このように、あなたがたも自分は罪対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい。」この考えなさいは、認めなさいということです。もともとは帳簿をつけるという意味です。帳簿をつけるのですから、貸方、借り方に間違えずに数字を入れるでしょう。そして、間違えずに計算するでしょう。帳簿に確実に記帳されているように確かなこととして、洗礼を受けたということは、あなたは、罪赦されている。神の子とされている。キリストの復活のごとく新しい命に満たされている。

新しくされている者として、自分を義のためにささげなさい。12-14に繰り返し、「献げなさい」とあります。

13節「またあなたがたは五体を不義のための道具として罪の任せてはなりません。かえって自分自身を死者の中から生き返った者として神に献げ、また五体を義のための道具として神に献げなさい。」とあります。

これが義の道なのです。つまり、罪と戦う者とされたということです。罪から離れるということ。罪と戦う者となること。それは、罪から根本的に解放されて自由だからできるということですね。またこれらのことは、この後、7章、8章で出て来るように聖霊の助けと導きがあってはじめてできることとなっています。これが、いわゆるクリスチャンになった後の、聖化の道なのです。出発点からはじまって、途上の歩みとして、洗礼から、聖化の道のりまでが語られました。

第四のことは、礼拝者として自分を献げることについてです。

第三の罪との戦いのためにも、自分を義の道具として献げるとありましたが、礼拝のために自分を献げるところまでいって、キリスト者の歩みの確信部分となります。

「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。

あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにしてお自分を愛していただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。」12:1-2

少し長いですが、引用しました。礼拝者として自分を献げる。それは、わたしたちキリスト者の生涯の中心テーマです。先ほどの6章では義の戦いの道具として献げる。ここでは礼拝者として自分自身を献げる。これらは、皆、いやいやながら無理矢理にしていくことではありません。6:14「あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にいます。」12:1「神の憐みによってあなたがたに勧めます。」いずれも、最初に、神の愛があるのです。神の恵みに覆われているのです。そのことに感謝して、自由なる思いから、神への愛をもってお返していくことです。神様がお喜びになるなら、自分自身をそのために献げていくのです。

さて、最初に、対話をしながらとお話しましたので、最後に、みなさんと対話をするつもりで、少し予想される問いをあげてお答えする形でこの説教を終えたいと思います。

ひとつは、信仰の成長と成熟についてです。信仰は成長するのだろうか。成熟ということはあるのだろうか。自分自身のことを考えたら、どうもそうは思えないと思われるのではないのでしょうか。義の道具として献げるといっても、あるいは礼拝者として自分を献げると言っても自分はできていない。罪との戦いにいつも破れてしまっている。いつも同じところをぐるぐる回っている。三步進んで二歩下がるなら、一歩ずつ進んでいるからまだいい。二歩進んで三步後退？あきらめてしまうような悪のスパイラル、悪循環があるけど。それに対して、私は、この教会の初代の牧師、私にとって父ですが、こんなことを言っていたのを思い出します。いきつもどりつするのが、クリスチャンライフなんだよ。みんなそうだ。これはまるで、らせん状階段だ。ある面から見ると同じところを行ったりきたりしている。でもある面から見ると、高く昇っていく。信仰が成長、成熟しているか。それともボンコツか。わたしたちにはわからないことだよ。でも委ねていたらいいんだ。そんなことを言っていました。

また自分は決心できるのだろうかということ。それには自分が良く分かっていないという意味があるのでしょうか。でも安心してください。今少しでも決心する気持ちがあれば、それで飛び込んで来てください。

私自身のことです。高校一年のクリスマスに信仰告白式をしました。赤ん坊の時に幼児洗礼を受けていました。わたしが信仰告白式を受けようと思ったのは、大人の階段を上するという意識だったかと思います。クリスチャンとして生涯をという思いはありました。

しかし、小さいころからキリスト教になじんでいたのでなんとなく分かっている程度だったのです。そんな感じでも、役員会は承認してくださって、信仰告白式をしました。ですから、その式を受けても感動とか、喜びとか、湧いてこなかったのです。いっしょに洗礼を受けられていた方々は、感動とか、喜びとかあるのに。自分は無い。それがちょっとショックでしたね。ちょっと悲しかった。でもある思いが与えられたのです。これも何かの導きだ。キリスト教のこと、救いのことが良く分かっていないことが分かった。それならば、こうしよう。それから、できるだけ水曜日の聖書研究祈祷会に参加しよう。それでできるだけ毎回一質問をしよう。それから日曜日だけでなく、祈祷会にできるだけ参加してということが続いていくのです。わからないこともたくさんありました。でも牧師の生の声としての答えをたくさん聞きました。あれから、46年くらい、途中離れたことがありますが、基本的に祈祷会に出ていることになりました。高校3年の頃人生の問題に行き詰ったことから、聖書をより身近に触れることになり、洗

礼の時も、信仰告白の時もわかっていなかったですが、神様の愛によって確実に捕らえられていたことを知りました。できたら、もう一度、ここで洗礼を受けと直したいと思ったことでした。それはかないませんでしたが、献身の道が導かれました。繰り返します。少しでも、1点でも、小さな志が与えられたら、飛び込んで来てください。

最後になりますが、礼拝が神様の喜ばれる最大の奉仕ですが、なかなか今日的に忙しくて、毎週確実に礼拝の時間が確保できないという方もいますでしょう。わたしたちは、できる限り礼拝厳守の姿勢をたいせつにしていますが、御仕事のこともあります。ご家庭の事情、様々なことがあって実際にはなかなか難しいと思われる方。それは、祈って自分の最善として礼拝の時間を確保していけばよいのです。それがもし1カ月に一回でも、体調の面で、それもむずかしかったとしても、神様との関係ですから、他の人に言われてではなく、自分の自主的な愛と献身の思いから、礼拝者として最善を選べば神様は喜んで祝してくださいます。

何も奉仕ができないと悩んでいる方。十分な献金がささげられないと悩んでいる方。礼拝者としての存在そのものを神様は喜んで受け入れてくださっています。神様の愛と恵みに感謝して、小さな献身の志を与えられているならば、それは聖霊によって導かれていることなのです。慈しみ深い神様が喜んでうけいれてくださいます。

今日は多岐にわたっていたかもしれませんが、神様が、皆様一人一人に、語りかけて働きかけてくださるようにと願います。一步を踏み出す決心を導いてくださいますように。どうぞ、一步を決意してください。そこからさらに進んでいくのです。祈りましょう。